

閉会中の調査報告

平成28年10月6日(木)

・ 湖南省社会福祉協議会の不祥事に関し、状況と再発防止策について、担当部局より経過報告を受けた。

・ 委員会の視察研修にあたり、本市の現状と課題について担当部局から説明を受けた。

行政視察研修報告

平成28年11月9日(水)～10日(木)

11月9日 埼玉県和光市「地域包括ケアシステム」について

10日 埼玉県ふじみ野市「生活相談から就労支援までワンストップでつなぐ体制」について

所管事務調査報告

平成28年12月9日(金)

視察研修後、各委員から報告書を提出、研修内容を分析・検討し、本市の課題解決や活用点の提案に向けて取り組んでいくこととした。

①地域包括ケアシステム（埼玉県和光市）

現状と取組の状況	湖南省で活用すべき事項
<p>人口約8万人。面積11km²。首都圏のベッドタウン。 高齢化率17.4%（湖南省21.7%） 介護認定率9.4%（同13.5%） 基準保険料月額4228円（同5008円）</p> <p>○地域包括ケアシステムの構成要素である「すまいとすまい方」「介護予防・生活支援」「介護・医療・予防」「本人の選択と心構え」の包括的な支援・サービス提供体制の構築をめざしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者個別の課題・地域別の課題を把握して介護保険事業計画に反映し、地域包括支援ネットワークを構築 ・ コミュニティケア会議での個々のケアマネジメントと、要介護者・家族に対する支援 ・ 介護予防事業などに民間力を活用 ・ 継続的・広域的な市民一人ひとりの健康づくりの推進 <p>○この取り組みによって、介護認定率は減少傾向にあり、介護状態の軽度化や日常生活の改善がみられる。</p>	<p>○介護保険の本質理解を市民に啓発 ○健康づくり基本条例の制定 ○要支援者の個人因子・環境因子を分析し、現状評価と予後予測を整理して、重度化を防ぎ、生活行為を向上させる要素を見出す「生活行為評価票」の導入</p> 

②生活相談から就労支援までワンストップでつなぐ体制（埼玉県ふじみ野市）

現状と取組の状況	湖南省で活用すべき事項
<p>人口約11万3千人。面積14.6km²。首都圏のベッドタウン。</p> <p>○生活相談から就労支援体制は、福祉部の「福祉総合支援チーム」が担当している。常勤職員4人（管理職2人・保健師1人・精神保健福祉士1人）、非常勤3人（臨床心理士2人、社会福祉士1人）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自立相談支援事業は、NPOに業務委託。支援チームと同じ部屋に常駐し、緊密な連携をとっている。 ・ 隣室に、困窮者だけでなく、一般も利用できるハローワークを設置 ・ 学習支援事業（委託）は、中学・高校生対象に市内2か所で週1～2回開催。対象者は、生活保護家庭に限らず、学校からの紹介による。 ・ 発達障がいのある人などの就労・生活支援は業務委託 <p>○事業のほとんどが業務委託であるが、連携の大切さをしっかり意識し、最終的には市が責任を取る姿勢を示している。</p>	<p>○ワンフロアでの複合的な支援体制の確立 ○担当職員の正規化 ○「チャンスワークこなん」を一般市民へ利用拡大 ○民間力の活用</p> 